

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1171600479		
法人名	株式会社 吉田フオー		
事業所名	グループホーム 楽しいわが家		
所在地	埼玉県上尾市中妻2-13-8		
自己評価作成日	平成25年1月10日	評価結果市町村受理日	平成25年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=1171600479-00&amp;PrefCd=11&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=1171600479-00&amp;PrefCd=11&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88逸見ビル2F
訪問調査日	平成25年2月1日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

個々の利用者様やそのご家族が、自分の家のように生活が送れるよう家庭的な雰囲気大切にしています。イベントを重視し、ご家族様と共に参加出来る機会を多くなることを目標としています。周辺環境にも恵まれ、日々の散歩や買い物などはもとより、町内会の夏祭りや敬老会など地域住民の一員として積極的な交流をもち地域密着型グループホームを目指しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

JR北上尾駅から徒歩10分程度の場所にあるホームは、幹線道路に面し、通りの前には大きなスーパーや飲食店のある立地にある。「和顔・愛護・尊厳」を基本理念に掲げ、明るい笑顔とあたたかい心を大切に、言葉使いや態度に気をつけながら日々の介護に携わっており、培われた利用者や家族との信頼関係の中で利用者支援に努めている。また管理者は職員とよく話し合い、職員からの要望や提案などにも積極的に取り組み、希望する勤務態勢を受け入れたり、2名の看護師が交代で勤務したり、働きやすい環境作りにも努めている。利用者は、優しい職員に囲まれ、笑顔と会話のあるゆったりとした生活をしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングなどで理念について話し合い、研修・確認し、実践方法の共有化に努めている。	三つの理念「和顔・愛護・尊厳」について、具体的にどのような事を指すのか話し合い、文章で表現し、共通理解し、明るく楽しく生活を送れるよう実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りに参加したり、ホームの行事に地域の方々とまねいたりして、交流に努めている。	町内会に加入し、地域のお祭りに呼ばれ参加したり、近くの町内会館を借用し、認知症についての講習会を行ったり、地域のボランティアや中学生の訪問もある。市内のグループホームとの連携が2ヶ月ごとに行われる。	地域密着施設として、講習会を開いたり行動しているが、近隣の幼稚園との交流を図ったり、更なる地域との交流に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において報告や意見交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市内同事業所との情報交換を定期的に行っている。	地域包括支援センター職員・町会長・家族・他施設のケアマネージャー等が参加し、現況や行事計画の説明、及び報告等を行い、その後意見、要望、質問等を頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者と常に連絡を取っている。	地域包括支援センターや、市担当窓口には様々な相談を行い、良好な関係が築かれている。また、市主催の介護関連の催しへの参加協力も積極的に行われている。出張講習サービスもあり利用を考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全の確保との兼ね合いの中で、出来る限り実践している。やむを得ないものとするものに関してはご家族との話し合い、その上で同意を頂いている。	マニュアルで拘束の弊害を理解したり、現場での気づきを早い時期に取上げ、再確認合っている。施設の玄関前は幹線道路であり、利用者の安全を考慮し、家族に同意を得て施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については日々の中で重要注意事項としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対応が必要な利用者には関係各所と連携を取り制度を活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に必ず説明し理解をいただき押印をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に傾聴を心がけている。外部者については介護相談員(月1回)や地域会議、家族の訪問等で設けている。問題点については改善をしている。	行事や運営推進会議への参加や、普段の来所時には声をかけ、意見や要望をいただく等、日頃からコミュニケーションをとる配慮がされている。その情報をスタッフ間で共有し、対応することで信頼関係が築かれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議を臨月に行っている。運営検討委員会を設置し、日々の業務内容を検討、改善出来る仕組みを作っている。	全体会議や707会議などで意見・提案を聴きとられている。また、言いやすい環境がつけられ、活発に意見・提案が行なわれ、個別ケアのほか、事業所催事の計画等、サービス向上に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の意見を取り入れた運営方法により、向上心を持って働ける職場作りを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な研修を受け入れられるよう情報を整備し、機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を通して情報交換等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から相談員を通してなるべく多くの情報もらい、ご本人がスムーズに入居できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談員を通しご家族との話し合いを重視し多くの情報からご本人が充実した生活を送れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族が納得できるサービス支援を第一目標に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の人生経験を尊び、介助に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の行動や思いを大切に、一緒に外出したり、常に今までの生活の延長であることを認識しながらご家族様との関係、連携に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでのご本人との関係を尊重するとともに、気楽なホームへの来所や外出へのサポートをしている。	近隣のボランティアや知人・友人が来所したり、馴染みの人にはオープンに対応され、関係の継続に努められている。家族の協力を得ての墓参りや、馴染みの店での買い物など関係が途切れないよう支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクなど通して馴染んで頂ける様配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設への転居となられた場合でも、ご家族を通しての相談や支援に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン会議(毎月開催)により、日々のご利用様の思いや状態について情報交換を行いご本人にとって最善のケアが出来るように努めている。	日常的には話を傾聴し、表情や行動から把握するよう努めている。又、会議でカンファレンスをしたり、申送りで個々のチェックをして思いや意向を共有し、個々に沿った対応に結び付けるようにしている。	重度化していく中で、思いや意向の把握は大変難しくなっていくが、職員の更なる上を目指す研修や、外部施設との交流を図り、利用者本位の対応が出来る施設であり、期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時と日々の生活の中で、ご本人やご家族へ確認しながら職員全員で把握と共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時と日々の生活の中で、ご本人やご家族へ確認しながら職員全員で把握と共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケアプラン会議を実施し情報・意見交換をして作成している。	利用者様の日常生活の中から、意向を把握したり、家族が面会に来た時に話を伺うことで、希望に沿った計画を作成している。又、必要に応じて主治医と相談、意見を伺っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや介護記録により、日々の実践や情報の共有を図り、ミーティングにて意見交換を行い介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常にご利用者様の立場に立ち臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの活用近隣中学校からの体験学習の受け入れ、防災訓練にて消防と連携し協力している。地域密着運営推進会議における民生委員の参加等へ働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人又はご家族の希望を尊重し、掛かり付け医に協力して頂き連携し対応している。	入居以前のかかりつけ医を継続するかは、本人、家族が決めている。受診は家族、又は、ホームが対応し、結果については報告し合っている。看護師二人が交代で介護を行っており、職員の安心感にもつながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師の配置。体調管理や健康相談の実施。医療機関受診時付き添いにより、日々の生活の注意点等を医師と相談し、職員へアドバイスを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、担当医師とご家族との相談の上、ご利用様にとって最善の方法をとります。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時おおむねご家族がどういう希望をするか確認し、共有する。重度化となった場合は現状を担当医師とご家族と相談し、ご利用者様やご家族様にとって最善の方法を取っています。	入居前に家族・利用者には理解していただき、重度化や急変時に向けた方針は、その都度かかりつけ医、家族、ホームで話し合い、利用者に対してより良い対応に向けた支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練をおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練をおこなっている。	消防署の指導の下で、定期的に入居者も参加し、日中・夜間想定火災避難訓練を実施している。様々な災害や時間帯を想定した訓練が行われており、震災時の避難にも成果が表れており、災害対策への意識も高い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき対応している。一人一人の尊厳を守り、ご利用者様の生活歴を理解し、個々にあった対応に努めている。	生活歴を把握し、利用者を尊重した言葉掛けに気を付けている。日々の生活の中で様子を観察しながら、プライバシーを傷つけないように個々の入居者に合った支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にご利用者様の希望や状態を把握し実行している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	パーソンセンタードケアの実現に向け、日々どうしたらより良いケアが実現できるか、職員間で話し合う。本人の意思を尊重し、したいこと、興味のある事を見つけて支援していく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様の居室を職員で担当を決めている。日々の衣類の整理整頓、衣替え等を行っている。またご家族様には必要な物についての協力を頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の習慣を大切にして、食事はバランスよく、季節ごとの料理を工夫している。食事もかたづけも一緒になって行っている。	利用者個々の能力に合った手伝いを職員と共に行っている。準備から後片付けまで、出来ることに携わってもらっている。季節感や行事食にこだわり、個人の好みも把握され食事が楽しみになるように配慮されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは特に重視し、また水分摂取量については一日の水分量をチェックし、不足分については特に好みの物で摂ってもらうなどしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個人個人に応じた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自室にトイレが設置しているため、個人個人の状況に応じた介助をしている。また個人の排泄パターンを職員が共有することで誘導や介助により排泄を支援している。	個々の排泄パターンを把握し、声掛けや誘導によりトイレでの排泄を支援している。居室にはトイレが設置しており、プライバシーも守られている。過度なトイレ誘導をすることなく、利用者個々に自然な対応が実践されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクなどで適度な運動を行っている。便秘予防については、排泄表で管理し、また看護師の対応のもと協力医療機関と相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	おおむね時間帯は決めているが、ご本人の意向及び体調を考慮し実施している。	基本は、午後であるが朝や夕方等、時間帯を決めず利用者の状況に応じて、ゆっくり楽しんで頂いている。気分、体調等で辞退、中止、拒否時は時間や曜日を替えて対応し、菖蒲湯、柚子湯等の季節の湯も取入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心休まる音楽を聴いていただいたり、休む前には好みの飲み物を摂ってもらったりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人個人の服薬や目的を理解し、管理表のもと確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年間の行事やイベントを多く企画し、楽しめるよう支援している。日々の散歩にもご家族様と一緒に出掛けたり気分転換には気を付けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、ドライブなど、その人に合った外出方法にて支援している。お花見、近隣施設の催しなどへは、ご家族と協力し外出支援している。	近隣には、公園や幼稚園があり、日常的な散歩や日光浴の他、定期的な買物等の外出を取入れている。重度化していく中で、季節を感じていただくよう、家族に協力を求め花見やドライブに出ている。散歩のチェック表にて参加回数も把握している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理は困難のため、職員が行い、買い物や外食などでお預かりしているお小遣いで楽しんでもらえるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本の希望によりやり取りができるよう取次を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下に花や置物、絵を飾り季節感や家庭的な雰囲気作りに努めている。	利用者が安心して生活出来る様に、室温・音などきめ細かな配慮がとられている。利用者にとって不快や混乱を起こさぬよう、普通の家らしくを基本とし、畳の敷かれた空間には大きな堀こたつが設置され、落ち着いたある明るい共用空間づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	掘り炬燵や食卓、ソファーなど様々な場所を用意してある為、気が向いた場所で自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族様と相談して使い慣れたものをお願いしている。ご自分の居室でリラックスできるように支援している。	各居室は広く、トイレ・洗面台・クローゼットが設置され、排泄、手洗い、歯磨き等が落ち着いて出来るようになってきている。出窓には馴染みの小物や飾り物が置かれ、落ち着いた生活が出来るように配置・工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に沿って環境も変えるよう取り組んでいる。		